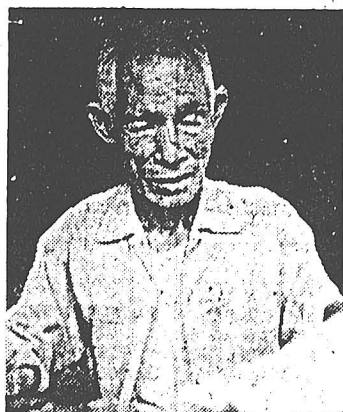


各地被害者に大悪評

公害法案、衆院を通過したが……

“抜いた骨”入れなおせ

変らぬ企業優先の考え



「企業優先だ。と不満をぶちまける渡辺さん」



富士市公害対策市民協議会長の甲田さん

八つの委員会による調査報告・事例の集中審議方式で賛否まで行なった。公害国会は十日夕、衆議院本会議で公害防止法改正案などほとんどが修正を受けたり、付帯決議がついたりしながらも十四法案ともはじ原案通り可決された。「世間に知られる公害法案は、佐藤首相をはじめ政府首脳が胸を張ったこれらの法案だったが、公害被害者の評判はどうか。『せんでん期待出来ない』『公害問題に“かっこ”をつけるための法律”と、手ごっつい出がぶかった。』

「公害の概念ともいへき基本。たのはよいが、もう一歩進んで、経済との調和案項を削いだ。せんでん期待を明かしなかったのか。これは政府が財界の方をチラチラ見て気がねして作った法律だからそうなるのだ。」「下口の町、静岡県宮土市公害対策市民協議会会長甲田さんにはこう指摘する。甲田さんは公害調査を傍聴したが、その印象は「政府のコンニャク答弁に対し、野党も不勉強で追

及が甘い。こんな状態では不当に被害者を満足させる法案はできない」と。そしてなによりも本調だったのは環境保全がタナ上げとなっていたこと。また有価水銀中で多くの死者を出した世帯は被害を受けた水俣市、新潟市の被害者たちの評判も悪い。「テレビで国会の審議を

見たのは企業優先の考えがはっきり出ている。法務大臣は、『おそれ』がはいって、いなくておそれ果は同じだといっているが、それならいれればいいじゃないか。また罰則も軽く、あの賠償の罰金すら大企業にとて痛くもかゆくもない」(水俣病患者会副会長、山田代表、環境運動家)

「四日市セソク」で公害都市のレッテルをはられた、静岡県四日市の公害被害者の会長山田心月さんは「今度の公害法では、四日市のような大気の複合汚染は対象にならない。現実に、山田が衛生、その犯人がわからず、いかに罰せられないのだ。これではザル法といわれてもむを得まい」とい、今夜はこれらの公害法案の改正を求めて全力をあげる方針だという。

このようにほとんど被害者が公害問題の被害者ばかりを指摘するが、安中、新倉をなす、社会会長、森田雅雄さんのように「大怪、小怪が投かれ、かなり後退してしまっただ、一応法律ができたことはプラス。これからはこの法律を、足がかり」として抜かれた

臂を入れ直していくことだ。その
民にも臨力を求め、住民運動をも
者もいる。

ためには被害者はもとより「一般市
——つと疑り上げていく」という被害